

# 安達太良山 平成18年（2006年）年報

## 火山活動評価：静穏な状況

地震活動、噴煙活動は低調な状態で、地殻変動に特段の変化はなく火山活動は静穏に経過しました。

## 火山情報

火山情報の発表はありませんでした。

## 概況

### ・地震活動（表 1、図 2）

火山性地震は少ない状態が続いています。  
火山性微動は観測されませんでした。

### ・噴煙活動、熱活動（図 3、図 6～図 8）

遠望観測（監視カメラ:沼ノ平火口から西北西へ約 8km）では、沼ノ平火口付近で 1 月に最大で高さ 50m の噴気が観測されました。しかし、その他の月に噴気は観測されず低調な状態が続いています。

5 月 31 日から 6 月 1 日に実施した調査観測の結果、沼ノ平火口付近の噴気・地熱地帯の状況に変化はなく静穏な状態でした。

### ・地殻変動（図 4～図 5）

山体周辺で行っている GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は観測されませんでした。

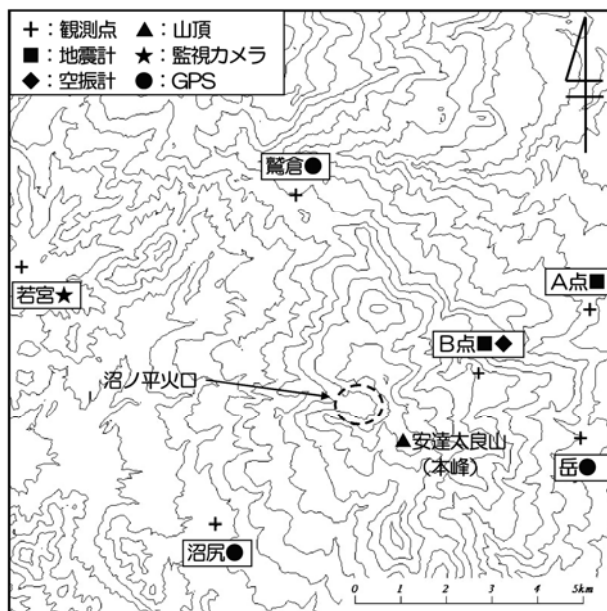


図 1 安達太良山 観測点配置図

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50m メッシュ（標高）」を使用しています。（承認番号 平 17 総使、第 503 号）

表 1 安達太良山 2006 年火山性地震・微動の月回数（基準点：図 1 の B 点）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
地震回数	2	0	2	4	2	1	12	1	5	8	2	3
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

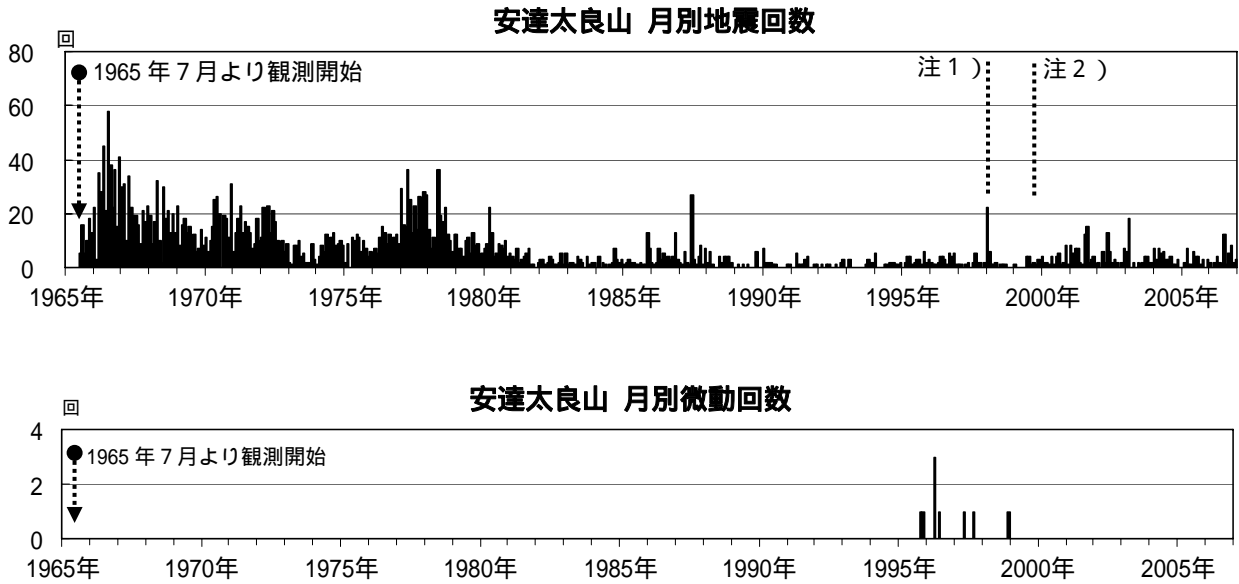


図 2 安達太良山 月別地震回数および月別微動回数（1965 年 7 月～2006 年 12 月）

注 1 ) 1998 年より検測基準を S-P 5 秒以下から S-P 2 秒以下に変更しました。

注 2 ) 1999 年 10 月に B 点を新設し、基準観測点を A 点（沼ノ平から東北東約 6 km）から B 点（沼ノ平から東北東約 3 km）に変更しました。

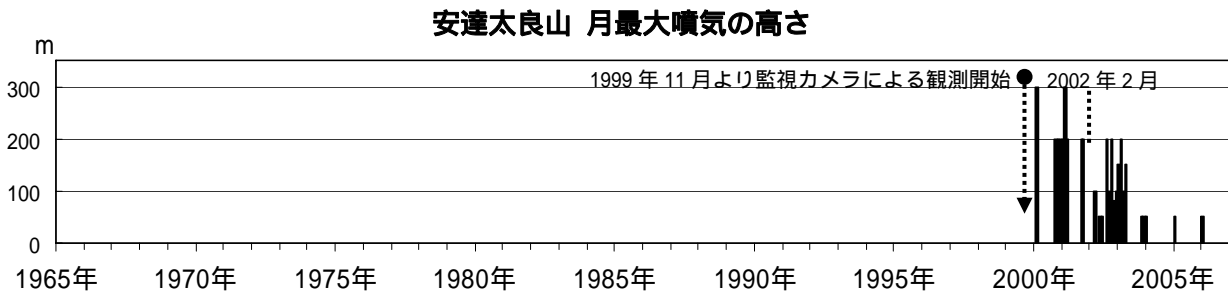
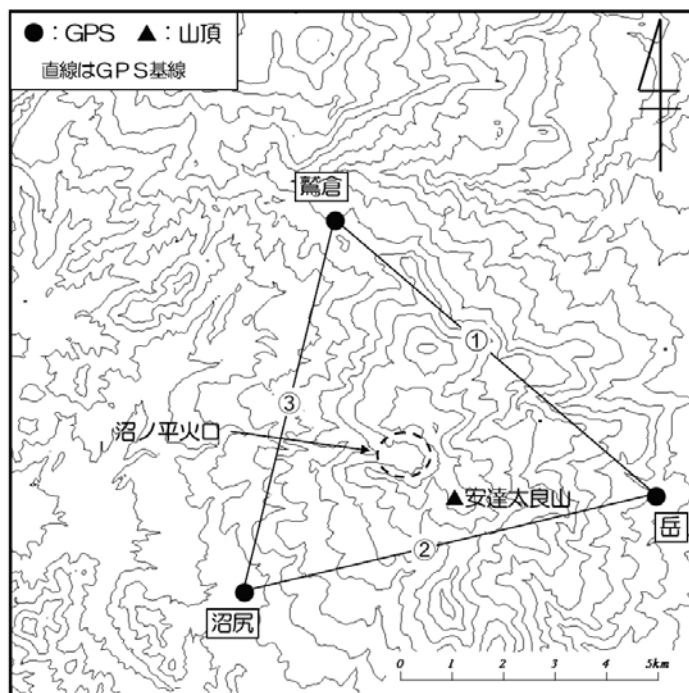


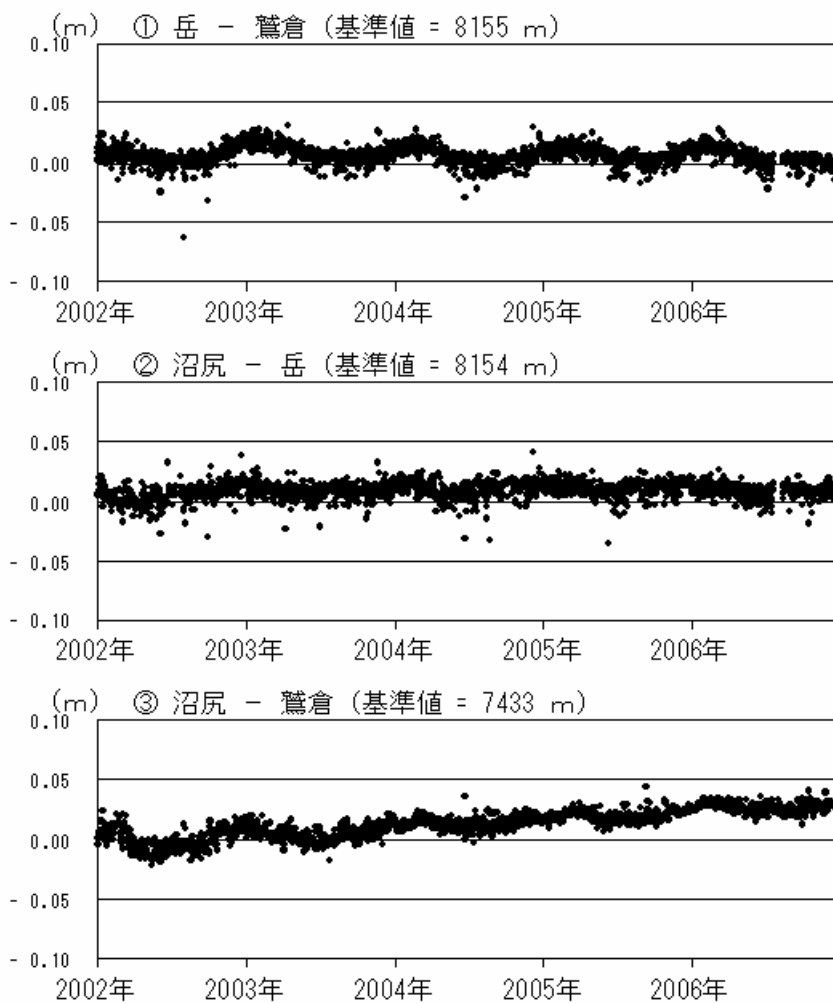
図 3 安達太良山（沼ノ平）月別噴気高（1999 年 11 月～2006 年 12 月）

2002 年 2 月以前は定時(09 時, 15 時)及び随時観測による高さです。

2002 年 2 月以降は全ての時間を収録データから観測した高さです。



**図4 安達太良山 GPS 観測点配置図**  
GPS 基線 ~ は図5の ~ に対応しています。



**図5 安達太良山 GPS 基線長変化図 (2002年1月~2006年12月)**  
~ は図4の GPS 基線 ~ に対応しています。

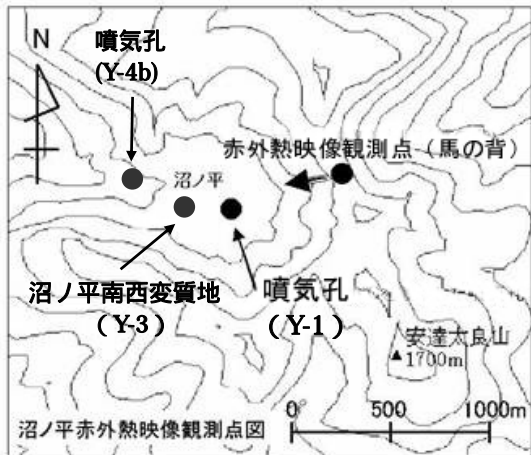


図6 沼ノ平赤外熱映像観測点図

（国土地理院 数値地図 50m メッシュ(標高)を使用）

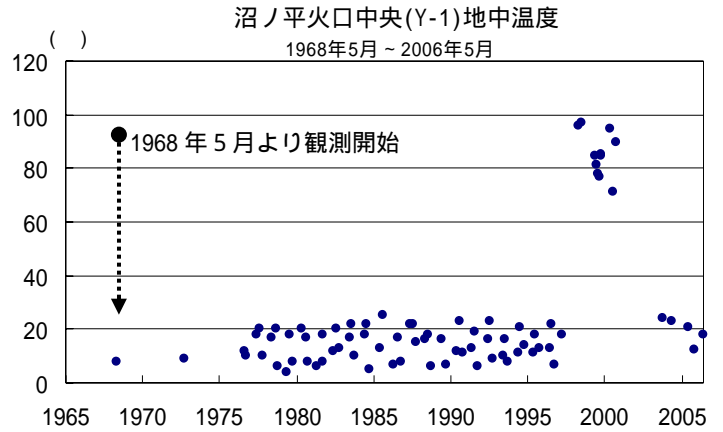


図7 沼ノ平火口中央(Y-1)の地中温度<sup>2)</sup>の変化



（2005.10.18 撮影）



（2006.6.1 撮影）

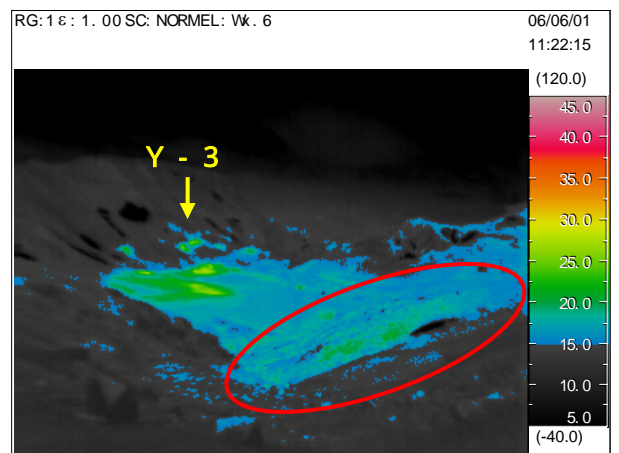
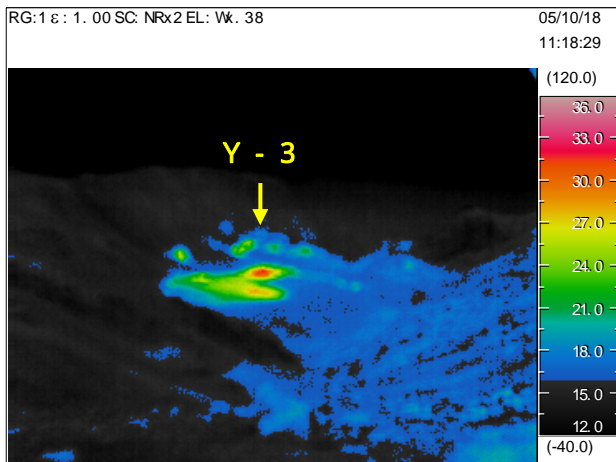


図8 沼ノ平の可視画像（上）と赤外熱映像画像<sup>1)</sup>（下）

（赤外熱映像画像の赤い円で囲まれた範囲には、日射の影響によるものも含まれる）

沼ノ平火口の噴気は、高い所でも5m前後と全般に噴気活動の低下傾向が見られました。赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測で、沼ノ平南西変質地(Y-3)付近は周辺より地熱の高い領域が引き続き解析されましたが、前回(2005年10月18日)観測された噴気も今回は観測されず、噴気活動の低下が見られます。

沼ノ平火口中央(Y-1)付近の噴気も前回同様停止しており、地中温度<sup>2)</sup>も低い状態(18 )で、引き続き静穏な状況が続いています。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する機器で、熱源から離れた場所から測定する利点はありませんが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) 地中温度等はサーミスタ温度計で測定しています。サーミスタ温度計は、センサーを直接熱源に当てて温度を測定する機器です。